

プレビュー

 プレビュー[2019年度／倫理学Ⅱ (野尻)／野尻 英一]

授業情報

開講年度	2019年度	開講箇所	法学部
科目名	倫理学Ⅱ (野尻)		
担当教員	野尻 英一		
学期曜日時限	秋学期 01:月3時限		
科目区分	Ⅱ「哲学・思想・歴史」	配当年次	1年以上
使用教室		キャンパス	早稲田
科目キー	1200001H22	科目クラスコード	01
授業で使用する言語	日本語		
	オープン科目		

シラバス情報

副題	現代人間学としての倫理学
授業概要	「倫理学Ⅱ」では、現代社会に生きる人間の問題を考えるために、哲学・倫理学・現代思想を理解し、基本を習得することを目指す。 現代の西欧近代化された社会において人間が生きるとはどういうことであるかを理解するためには「弁証法」を理解する必要がある。弁証法(dialectic)とは、古代ギリシアに起源をもつ用語であるが、一般には十九世紀の哲学者ヘーゲルが得意とした思考法であるとされている。しかし二〇世紀現代思想の展開を経て判明したことは、弁証法とは単なる思考法ではなく、近代社会の構造と近代人の思考の構造そのものであるということである。したがって弁証法とは近代性そのものであるし、近代的な自我の構造そのものであるし、資本主義の構造そのものである。そしてその超克は、かつての現代思想ブームにおいて言われたようには簡単なものではない。この一〇〇年間、近代の超克ということは盛んに言われ、ポストモダン(ポスト近代)ということも盛んに言われたが、近代は後期近代というバリエーションへ推移しただけで、継続している。この講義では、テキストを精読することを通して、弁証法＝近代性とは何かについて理解し、それを通して自己自身を理解し、そして弁証法が解除された(終了した)状態とはどういうことかを考えることができる思考力と想像力を養う訓練をおこなう。 本講義では、古代から現代までの西欧の哲学・倫理学の重要古典(eg. ソクラテス、プラトン、アウグスティヌス、デカルト、カント、ヘーゲル、マルクス、ラカン、フーコ

	一、デリダ）を横断し、さらには東洋の思想も取り上げながら、あくまで現代の人間について考えていく。大事なことは、いわゆる教科書的な倫理学史を頭に入れることなく、一つ一つの哲学者の思想がどのように現代の自分とかわかっているかを理解することである。テキスト講読と並行して文学、芸術、映画、表象文化（マンガ、アニメ等）からも事例を引用しながら、現代の人間学としての倫理学のフィールドを構成する。 講義の形式は、基本的に、テキスト（教科書）の精読と解説である。受講者は、テキストを主体的に読み深く考える素養と努力を要求される。
授業の到達目標	哲学、思想の方法と、現代に生きる自分自身の生き方について考えることとのつながりを見いだすこと。
事前・事後学習の内容	教科書の指定箇所を事前に読んでおくこと。予習箇所は授業中に指示する。 また授業で紹介された書籍や映像作品などを進行に合わせて鑑賞しておくこと、授業内容の習得度が上がるので、望ましい。
授業計画	講義は、基礎論二回の後、教科書から主に四篇の論文を選んで講読する予定である。教科書収録の他の論文にも適宜論及する。 なお当該年度のカレンダーや進行の都合により予定を変更する場合がある。 第一回 イン트로ダクション（基礎論①） 第二回 人間とは何か～弁証法から考える～（基礎論②） 第三回 自閉症スペクトラムの存在分節① 第四回 自閉症スペクトラムの存在分節② 第五回 自閉症の哲学的考察による「人間」観の再考① 第六回 自閉症の哲学的考察による「人間」観の再考② 第七回 虚空と風——南方熊楠の「場所」をめぐって——① 第八回 虚空と風——南方熊楠の「場所」をめぐって——② 第九回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章——① 第十回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章——② 第十一回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章——③ 第十二回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章——④ 第十三回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章——⑤ 第十四回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章——⑥ 第十五回 まとめ 教科書（『哲学の戦場』）目次 野尻英一 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章—— 加藤直克 ヘルダーリン『ヒュペーリオン』を読むということ 中尾健二 モーツァルトのオペラにみる近代 高橋明彦 アリアドネは歎く——詩人としてのニーチェ？—— 三浦仁士 自閉症スペクトラムの存在分節 唐沢太輔 虚空と風——南方熊楠の「場所」をめぐって—— 相川 翼 自閉症の哲学的考察による「人間」観の再考 那須政玄 「自然」の取戻し——カント『判断力批判』の読み方——
教科書	那須政玄・野尻英一共編『哲学の戦場』行人社、二〇一八年（三八〇〇円） ＊受講者は購入すること。大学生協で購入できる。
参考文献	榎山欽四郎『哲学概説』創文社、榎山欽四郎『哲学の課題』講談社学術文庫 野尻英一『意識と生命』社会評論社 高瀬堅吉・野尻英一・松本卓也編『自閉症学のすすめ——オーティズム・スタディーズの時代』ミネルヴァ書房

＊参考文献は発展的学習のために指示している。購入は必須ではない。用法は授業中に解説する。

成績評価方法

割合

評価基準

レポート: 100% 学期末に提出する期末レポートにより評価する。

備考・関連URL

《登録希望者への注意》

「倫理学II」は、二〇一七年度までプレゼンテーションによるマルチメディアスタイルの授業を行っていたが、方針を変更し、オーソドックスな教科書講読スタイルの講義となった。登録希望者は、旧講義受講者の提供情報に頼らず、あらかじめ大学生協で教科書をチェックするなどした上で、みずからの判断により受講を決めること。
また本授業は出席は確認しないが、授業にしっかり出席し授業内容及び教科書を理解しなければ、合格点に達するレポートは書けない内容となっている。この点にも留意して受講を決めること。